

2018年6月11日

各位

ニッケル協会 東京事務所
所長 江崎 慎二

弊協会本部の役員人事について

弊協会は、2018年6月1日をもちまして下記の通り協会本部役員の異動を行いましたので、お知らせいたします。

記

新役職	旧役職	氏名
Non-executive Senior Advisor	President	David Butler
President	Executive Director, NiPERA	Hudson Bates

以下、協会本部プレスリリース記事へのリンクならびに日本語翻訳となります。

<プレスリリースへのリンク>

<https://nickelinstitute.org/en/MediaCentre/PressReleases/CurrentYear/20180601-leadershipchanges.aspx>

<日本語翻訳>

ニッケル協会、会長職の交代を発表

2017年6月に発表された職務継承プランを完了し、Hudson Bates 博士が2018年6月1日よりニッケル協会の新会長に就任いたします。前会長の David Butler 氏は5月31日をもって会長職を退任いたしました。両氏はこの一年間緊密に連携し、事前に予定されておりました職務委譲に備えて参りました。David Butler 氏は今後も非執行役員の上級顧問として、プロジェクトベースで引き続きニッケル協会に貢献して参ります。

今回の会長職交代にあたり、NMC ノリリスクニッケルのマーケティング・ディレクターでありニッケル協会議長でもある Anton Berlin 氏は次のように語っています。『David が成し

遂げた業績は傑出している。同氏は協会をニッケル業界において優れたサービス提供者へと改革し変貌させた。新規会員を呼び込み、科学、公衆衛生政策、市場開拓、広報の分野に集中的かつ効率的なアプローチを推し進めた。同氏は協会ならびに業界全体に対し 30 年以上に亘り優れた貢献をしてくれたが、特に会長として協会を率いたこの 5 年間は同氏の貢献は並外れたものであった。今後も同氏には専門的知識や経験を協会に提供していただきたいと考える。』

また新会長に就任した Hudson Bates 氏は、ニッケルと同業界に関する比類なき広範な知識を会長職にもたらすことになるでしょう。過去 20 年に亘り、同氏は自身の専門知識をニッケルとニッケル化合物に関する毒性学に捧げて参りました。また同氏はニッケル協会の科学部門である NiPERA においても経営者として輝かしい業績を残しています。同氏は、米国毒性研究者認定機関である the American Board of Toxicology において毒性研究の専門認定資格 (DABT) を取得しております。同氏の略歴は、ニューヨーク州立大学アルバニー校にて学士号 (理学士、生物学専攻) を取得、ユニオン大学付属アルバニー医科大学にて修士号 (理学修士、毒性学専攻) を取得、アーカンソー医科大学にて博士号 (毒性学専攻) を取得しています。

Hudson Bates 氏の新会長職任命にあたり、前述の Anton Berlin 氏は次のように述べています。『ニッケル協会の会員は新会長に就任する Hudson と協業してゆけることを心待ちにしている。同氏はニッケルに関する知識の中核として協会をより推し進めてゆくだらう。模範的とも言える数々の業績と共に、同氏は協会を率いニッケル業界を導く上で理想的な立ち位置にいる。市場開拓、公共衛生政策そして科学的見地から、ニッケルの適切な使用を促進し支援してくれるであろう。』

Hudson Bates 氏はこれまで NiPERA のエグゼクティブ・ディレクターとしてニッケル協会の科学的活動を指揮してきました。同氏の新会長就任にあたり、後継として副エグゼクティブ・ディレクターであった Adriana Oller 博士が同組織の新エグゼクティブ・ディレクターとして昇進・就任し、Chris Schlekot 博士が副エグゼクティブ・ディレクターに選任されています。

以上